



「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第10回調査>

2010年3月29日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年3月17日(水) 13:00～2010年3月24日(水) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、5160件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

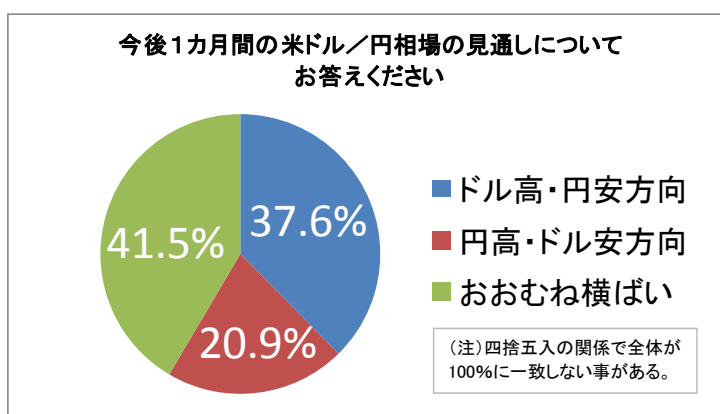
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第10回調査結果略報：ドル円予想DIは前回に続いて円安方向に】

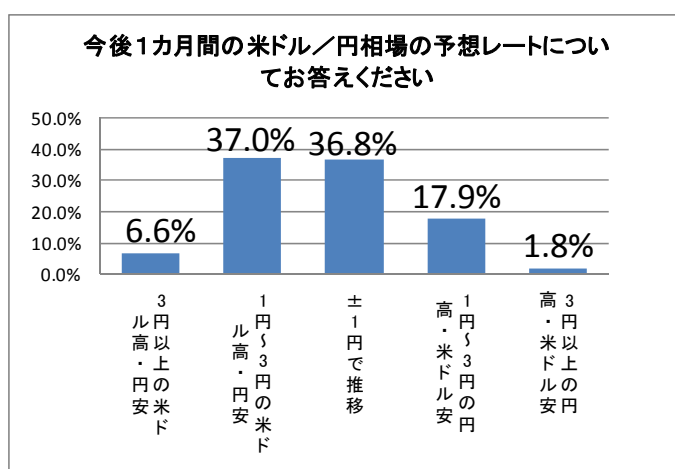
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が37.6%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が20.9%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+16.7%ポイントと、前回の+30.3%ポイントに引き続きドル高・円安方向となった。調査期間中のドル/円相場は89円台から90円台へのレンジ相場が続いていたが、去年夏場以降のDIの推移をみると、8月調査がドル高、9月が円高、10月がドル高、11月が円高、12月がドル高、1月は円高、2月がドル高と月替わりで転変し、3月は2月に続いてのドル高となっている。相場観の形成に苦勞している個人投資家の姿が表れている。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度のドル高・円安」と答えた割合が37.0%と最も多く、「±1円以内」が36.8%、「1円～3円程度の円高・ドル安」が17.9%、「3円以上のドル高」が6.6%、「3円以上の円高」が1.8%の順番になった。ヒストグラムの形状は、先月に引き続き円安側に偏った格好になっており、問1の回答結果とおおむね整合的であると言える。FX投資家層は機動的に相場見通しを入れ替えるのが特徴的だが、今回は円安見通しが円高見通しに勝った格好となっている。

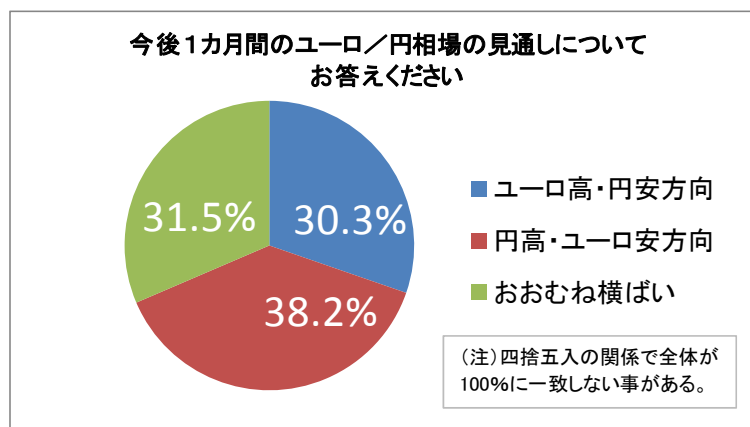


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

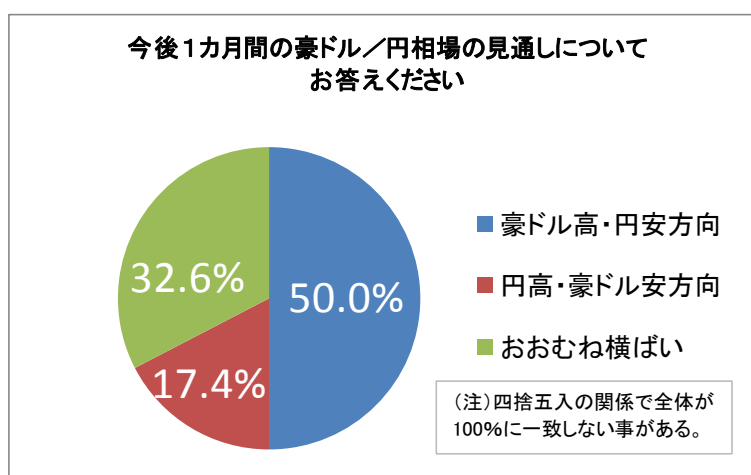
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が30.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.2%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲7.9%ポイントと、前回調査の▲7.1%ポイントに続き、ユーロ弱気派がユーロ強気派を上回る結果となった。調査期間内のユーロ円相場は125円台から121円台への下落推移であったが、一部のユーロ参加国の信用不安問題が長引く中で、FX投資家層のユーロ弱気心理は依然引き続いている様子がうかがえる。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が50.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が17.4%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+32.6%ポイントと、前回調査の+42.1%ポイントと同様に豪ドル強気派が弱気派を上回った。調査期間中の豪ドル円相場は83円台から81円台へ行って戻る展開であったが、FX投資家層の豪ドル強気超過は維持された。DIは調査開始以来常に2桁のプラスを維持する中、豪ドル強気派の割合は50%の高水準となっており、根強い豪ドルファンの存在が示唆されている。



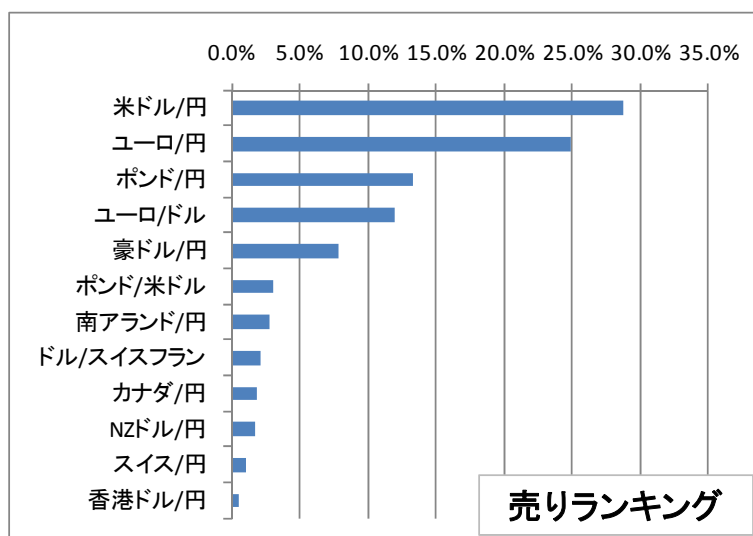
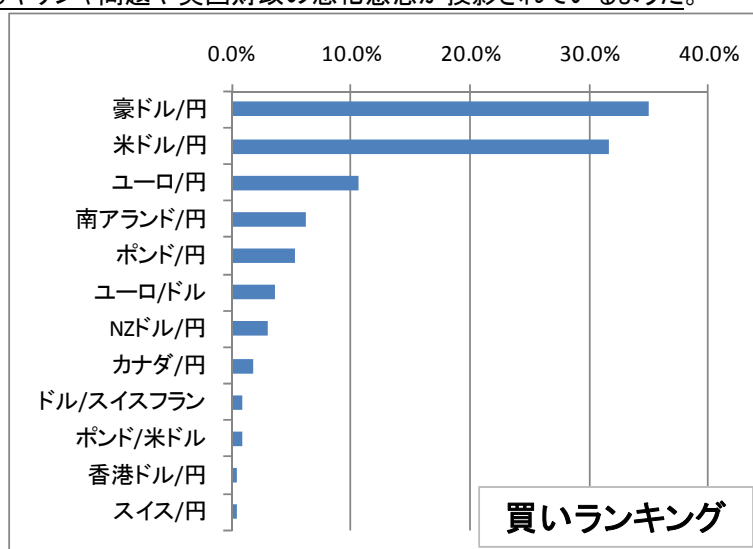
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(35.0%)、2位米ドル円(31.7%)と前回と順位が交代した。以下、3位ユーロ円(10.6%)、4位南アランド円(6.2%)、5位ポンド円(5.3%)の順となっている。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(28.8%)であり、以下、2位ユーロ円(25.0%)、3位ポンド円(13.3%)、4位ユーロドル(12.0%)、5位豪ドル円(7.9%)の順となっている。

米ドル円は買いでも売りでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さなどから、強気/弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。一方、「買い」注目で常に上位に位置する豪ドル円は、「売り」での注目度が相対的に低いという特徴があり、金利の高さや先高観が影響しているようだ。前回調査に引き続き、ユーロ円、ユーロドル、ポンド円などの欧州通貨の売りでの順位が比較的高い状態が続いている。根強く蒸し返されるギリシャ問題や英国財政の悪化懸念が投影されているようだ。

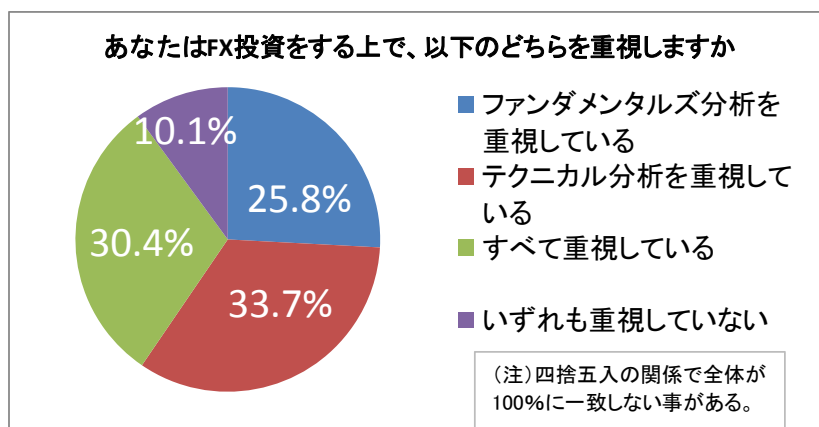


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

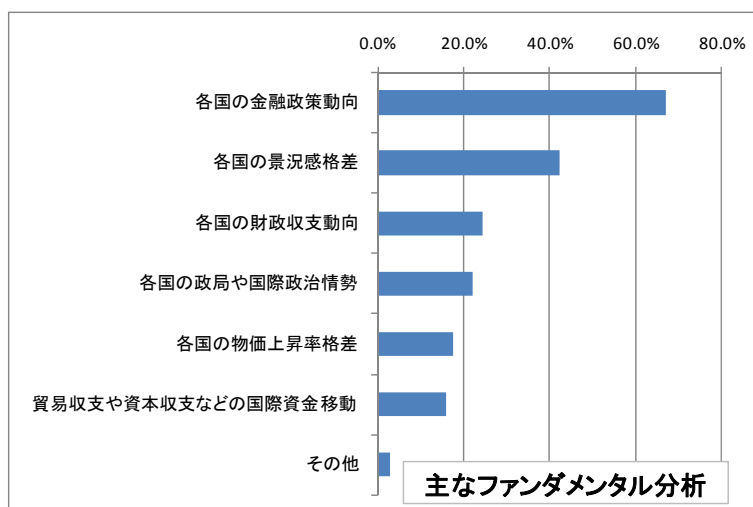
問6:あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が25.8%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が33.7%と、相変わらずテクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が30.4%、「どちらも重視していない」が10.1%であった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は生じていない。FX投資家の分析手法の好みは相場環境に左右され難いと言える。



問7:ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(67.0%)」が最も高く、「各国の景況感格差(42.2%)」、「各国の財政収支動向(24.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(22.1%)」、「各国の物価上昇率格差(17.6%)」の順に続いた。ファンダメンタルズ分析で活用する相場動向要因を個人投資家に尋ねたのは、前回に続き2回目であるが、「金融政策動向」や「景況感格差」などの基本的な要因と合わせて、ソブリンリスク問題による「財政収支動向」、また先進諸国で今年実施される選挙に絡んだ「政局・国際政治動向」等に注目する個人投資家の現状が見て取れる。

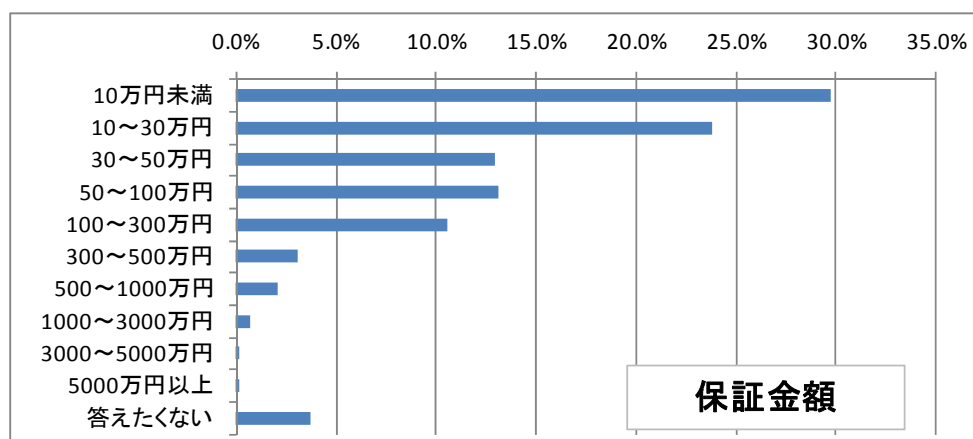


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

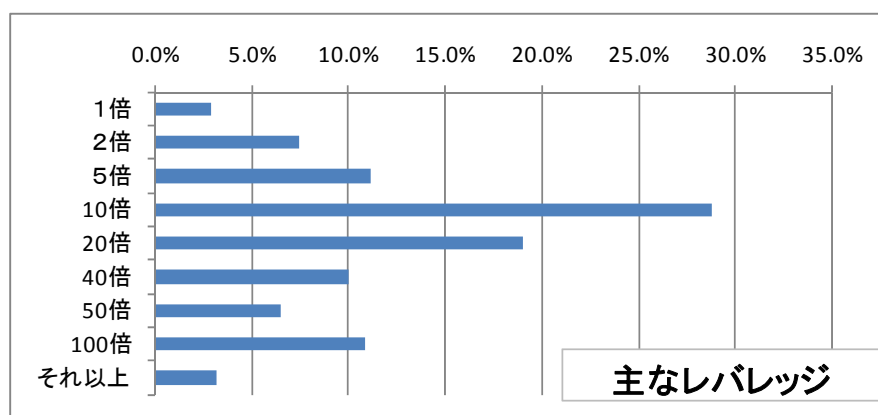
問8:FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(29.7%)が最も多く、10～30万円(23.8%)が2番目に多かった。回答者の過半数以上は、30万円以下に分布しているのが特徴だ。以下、30～50万円が12.9%、50～100万円が13.1%、100～300万円が10.5%、300～500万円が3.1%となっている。回答割合の順番は、一部に微妙な逆転があるものの、基本的に保証金額の大きさと反比例の関係にある。不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを再確認させる内容になっていると言える。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(28.7%)が最も多く、20倍(19.0%)が2番目に、5倍(11.2%)が3番目に多かった。これに次ぐ4位が100倍であったが、その比率は10.9%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.2%を合わせて15.1%であった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に答えた個人投資家の7割近くは20倍以下の倍率を主として活用している。上記問8の回答結果と合わせ、比較的堅実なFX取引の実態が示唆されている。

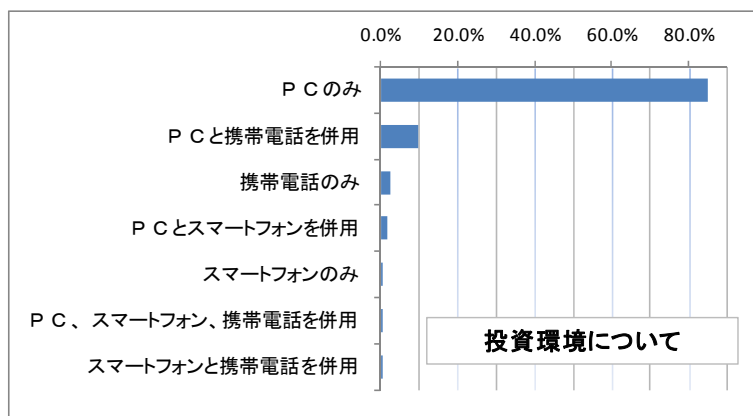


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

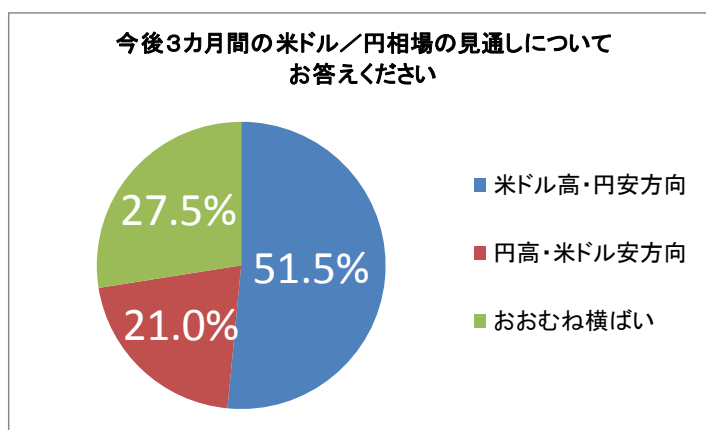
問10:FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか？

今月の特別質問項目として、「FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか」と尋ねたところ、「PCのみ」と答えた割合が85.0%、「PCと携帯電話を併用」と答えた割合が9.7%となり、この2件の回答で95%近くを占めた。この結果から個人投資家の投資環境は操作性や画面の見やすさ、情報取得量で優るPCが主体であり、相場変動の際にも機動的な対応が可能な携帯電話やスマートフォンを用いた個人投資家はまだ少数派との姿が見て取れる結果となった。



問11:今後3カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「今後3カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください」と尋ねたところ、「米ドル高・円安方向」と答えた割合が51.5%であったのに対し、「円高・米ドル安方向」と答えた割合が21.0%となった。問1における「今後1カ月間の米ドル／円相場の見通し」と比較すると、米ドル高・円安方向を見ている個人投資家の割合が37.6% (1カ月) から51.5% (3カ月) へと増加している。問7でファンダメンタルズ分析において「各国の金融政策動向」への注目度が一番高かったのと合わせると、米国では金融緩和からの出口戦略が議論の対象となっている一方で、日本は超金融緩和策が継続的に採用されていることから、金融政策動向を背景とした、米ドル高・円安を予期する個人投資家が多いとの回答結果になったとみられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第10回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年未満ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com